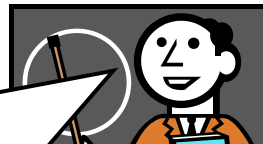




このお便りは、「キャリア教育」と「キャリア教育に関すること」について理解を深めるために作成しています。Q&A方式でお送りします。

中学校では「進路の学習」として、どんなことをやっているの？



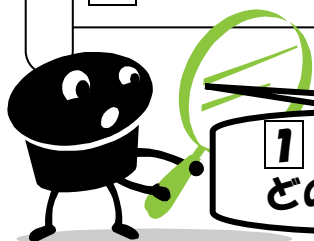
進路の選択に当たっては、**自分の興味・関心や適性等を重視することが大切になります**が、かつてはそれらにあまり重きをおかず、合格の可能性のみで高等学校を選択する傾向も見られました。このことが高等学校における学業や生活に対して目的や意義を見いだせず、学校生活不適応に陥ったり、中途退学してしまったりする一因であるとも言われています。

そこで、近年では、生徒自身が自分を見つめ、夢や希望をもって将来を描き、**よりよい人生を自ら切り拓いていく**ための学習に力を入れるようになりました。

進路の学習は「どう生きるか」をテーマにしており、次の3つの柱で成り立っています。また、現在ではこれまでの進路の学習を中心にして、**キャリア教育**が進められています。

「進路の学習」の3つの柱

- 1 自分のよさや得意なことを見つけさせ、それらを進んで生かそうとする意欲や態度を育てる。
- 2 様々な生き方、社会参加の仕方があることを理解させる。
- 3 「何を大切に生きて生きるか」ということを考えさせる。



1 「自分のよさを見つけのぼしていく」ために、どのような「進路の学習」をしているの？



自分自身のことを知らなければ、どのように自分を生かしていったらよいのかも分かりませんね。そこで、中学校の先生は様々な場面において、**生徒が自分のよさや得意なことを見だし、それらを伸ばし生かしていこうという気持ちをもたせる**ように努めています。

たとえば、学級活動の時間に自分の個性、適性、興味・関心について調べたり、まとめたりして自己理解を深めさせるようにしています。また、各教科の学習においても、**自分のことを自分で評価したり、生徒同士で評価し合ったり**して、自分を見つめる機会をもつようにしています。さらに、職場体験等の体験活動（マイ・チャレンジ）を通して、自分についてのより確かな理解を促しています。